

サブサハラ・アフリカにおける 初等教育の質向上と労働の関係

宇野公子研究室
イタリア語専攻4年
武井詩織

目次

- 第1章. はじめに
(問題意識・研究目的・本論文の構成)
- 第2章. データと変数
(データの選択・変数の説明)
- 第3章. 研究手法
(分析のフレームワーク・定義)
- 第4章. 分析
- 第5章. 総括

第1章. はじめに

(1)近年の教育開発の動向

1990年のジョムティエン会議以降教育の量的拡大が進むが、アクセス拡大の結果、教育の質的改善が遅れるという事態が起こった。

→教育を受けても、学習成果に結びついていなかったりと、学校に行く意味をなくしている。

(2)先行研究から

このような状況を受けて、

①教育の質に結びつく因子に関する研究

②教育の質が経済全体に与える影響の研究

を行なう先行研究が多数行なわれたが、教育の質の、ミクロ的な個人の所得や労働環境に対する影響に対する研究は今のところ見られない。

第2章. データと変数

使用したデータは、

[労働]15～24・24歳以上人口失業率(ILO, KILM)

月額平均賃金(ILO, KILM)

一人当たりGNI(World Bank, WDI)

[教育]SACMEQ読解カテストスコア(SACMEQ Report)READ

15歳以上人口の平均初等教育年数(World Bank, EdStats)YEAR

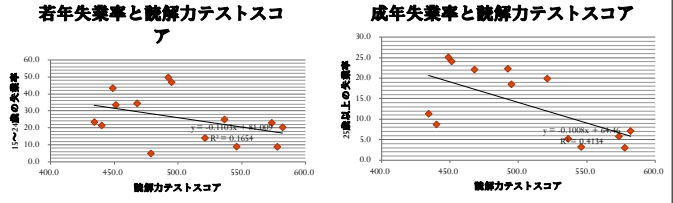
第3章. 研究手法

- ①失業率と教育の質(テストスコア)の相関関係を調べる
- ②人的資本の思想から生まれた教育生産関数であるミンサー方程式を参考に、教育の質の指標を加えて重回帰分析を行なう

$$\log(Y_i) = \alpha + \beta_1 \text{READ}_i + \beta_2 \text{YEAR}_i + \varepsilon_i$$

- ・ Y_i : 賃金
- ・ READ_i : 読解力テストスコア
- ・ YEAR_i : 教育年数
- ・ ε_i : かく乱項

第4章. 分析



二つ共に負の相関が見られた
 →教育の質向上と失業率には何らかの相関関係が見られる
 若年層の失業率よりも成年失業率との相関関係が強い
 →親の失業率が低いほど教育のお金をかけられるので読解力テストスコアが上がった？

第4章. 分析

月額平均賃金の回帰分析結果

概要				
回帰統計				
乗相関係数	0.570172			
乗決定 R ²	0.325097			
修正 R ²	0.218819			
標準誤差	0.557019			
観測数	159			

一人当たりGNIの回帰分析結果

概要				
回帰統計				
乗相関係数	0.591518			
乗決定 R ²	0.349893			
修正 R ²	0.280793			
標準誤差	0.431793			
観測数	25			

分散分析表				
自由度	変数	F値	観測された分散比	有意度 F
回帰	2	2.720165	2.890161615	0.094558
残差	12	1.529988	0.127489	
合計	14	2.289972		

分散分析表					
自由度	変数	F値	観測された分散比	有意度 F	
回帰	2	2.2071824	1.102912	5.626304191	0.006767
残差	22	4.101792	0.188445		
合計	24	6.309416			

係数	標準誤差	t	P-値	下尾 95%	上尾 95%	下尾 95.0%	上尾 95.0%	
切片	0.024896	0.90351	0.855873	0.52420208	-1.52007	2.820463	-1.52007	2.820463
READ	0.00071	0.002155	0.329404	0.747528783	-0.00396	0.005405	-0.00396	0.005405
YEAR	0.249241	0.125544	1.985291	0.070447989	-0.0243	0.522778	-0.0243	0.522778

係数	標準誤差	t	P-値	下尾 95%	上尾 95%	下尾 95.0%	上尾 95.0%	
切片	0.561295	0.888939	0.567573	0.578072013	-1.48984	2.812226	-1.48984	2.812226
READ	0.002996	0.001989	1.505815	0.148338883	-0.00113	0.007122	-0.00113	0.007122
YEAR	0.192069	0.0702957	2.733822	0.012120778	0.046366	0.337773	0.046366	0.337773

自由度調整済決定係数が0.4未満なので、あまり信頼性のある結果ではないが、P値やtを見ると、教育の質の指標よりも教育年数の方が賃金などの上昇に関連している。

第5章. 総括

- ①教育の質と失業率には相関関係がある
- ②賃金に対しては教育の質よりも教育年数の方が影響があった

→今回は初等教育の中での分析だったので、やはり初等教育の段階ではテストスコアを上げるよりも中退・未就学等をなくすことが賃金をあげる要因となりうる

→①②から、初等教育においてテストスコアなどの教育の質的成果は賃金に直接の影響を与えないかもしれないが、少なくとも失業率を減らすという意味で労働市場には関係があり、中退など効率性の部分での教育の質は賃金にも影響を与えている